

大阪市都市計画審議会専門部会 御堂筋の活性化に関する検討調査 報告書 概要版

- グローバル化や少子高齢化社会の進展、都市間競争の激化など、都市を取り巻く状況が大きく変化中、大阪の成長に向けてはそれを牽引する都心の活性化が不可欠であり、そのためには、これからの都心では、高度かつ多様な都市機能の集積や安全・安心への対応と圧倒的な都市魅力の創出につながる高質な都市デザインを備えた都市空間を構築していくが必要である
- 大阪駅周辺地区や中之島地区など周辺地区では開発の進捗に伴い高層化が進展するとともに、御堂筋では沿道の隣接街区においても都心居住の進展に伴い高層化が進む中、沿道では、建替えが進まず、淀屋橋～本町間のまちなみは31mと50mの建物ラインが混在し、周辺との埋没感が否めない状況にあり、キタとミナミを結ぶ大阪都心の中央に位置しながら、そのポテンシャルが充分発揮されていないと認識している。
- 建替えが進まない要因の一つには、淀屋橋～本町間でスカイラインの形成をめざした現行基準がビルの高規格化や多様化に対応しづらい形態規制であることが挙げられ、特に、昨今、うめきたなどの周辺開発が進む中、沿道の相対的地位が一層低下している状況にある。
- こうした状況を踏まえると、先達が御堂筋を建設した時代の理念に立ち返り、50年単位の時間軸で、次世代の御堂筋を考える必要があり、御堂筋への開放感を意識したこれまでのスカイラインの形成から、50mの軒線の統一・壁面の連続性やデザイン性を意識したまちなみの形成へと方向転換するなど、長期的な戦略としての将来像の設定と、伝統を継承しつつそのポテンシャルを最大限を活かす観点から、規制誘導方策の抜本的な見直しを行うものである。

【コンセプト】 大阪の伝統と革新がうみだす世界的ブランド・ストリート ～歩いて楽しめ、24時間稼働する多機能エリアへ

【今後の御堂筋の方針】 1. 安全・安心かつ複合的な都市機能を備えたまちへ

2. 御堂筋の強みをより発揮した大阪の顔にふさわしい世界的なまちへ

【各分野における取組方針】

都市機能(産業)

1. 世界を魅了する個性豊かな「にぎわい」の形成
～御堂筋フェスティバルモール化

2. 多様な機能をあわせ持つ「ビジネス」地区の形成

都市デザイン

3. ヒューマンかつ高質な「都市環境」の形成



融合

【誘導方策】 (淀屋橋～本町) (基本的な方向性) 高度かつ多様な都市機能の集積と高質な都市デザインを備えた次世代の御堂筋の実現をめざす ～沿道の有するポテンシャルを活かした経済性の発揮とスカイラインの形成から50m軒線の統一の継承へ～

●御堂筋のポテンシャルを最大限活かす

①形態制限：民間の自由度確保に向け形態制限を緩和

- 建替えに併せてオフィスビルの高規格化・複合用途化など、民間の自由度が確保できるよう形態制限を見直し。
D：H＝1：1（50m部分後退距離10m以上、最高高さ60m以下）
→50m部分後退距離4m以上、後退距離に応じた最高高さのルール化（D：H＝1：2の範囲内）

②容積率：望ましい機能誘導に向け容積率の最高限度1,300%に

- 沿道全体にわたり望ましい都市機能の誘導を図るべく、誘導用途、にぎわい形成、セットバック、防災・環境配慮等の積上げによる容積率割増を行う地区計画を適用（容積率の最高限度；1,300%）。ただし、0.5ha以上の区域では都市再生特別地区の適用により地域貢献に応じた容積緩和が可能。

●伝統を継承しつつ発展的なまちなみを形成する

③デザイン誘導：50m軒線の統一とデザインコントロール

- これまでのルールにより形成されつつある50mの軒線の統一・壁面の連続性を継承しつつ、壁面の意匠や低層部のデザイン誘導をメリハリのあるものに

④仕組みの構築：行政指導から都市計画に基づく誘導へ。民間が主体となったエリアマネジメントの推進体制の構築

- まちなみ指導要綱による指導から地区計画による誘導へ。よりきめ細やかなデザイン等のコントロールをガイドラインによりルール化。
- 行政主導から民間主導への誘導へ徐々に転換。一定のデザイン誘導のもと民間活動の自由度を高め高質な都市デザインを実現する仕組みを構築し、あわせて、公的空間の利活用を図りつつエリアマネジメントの推進体制の構築を促進

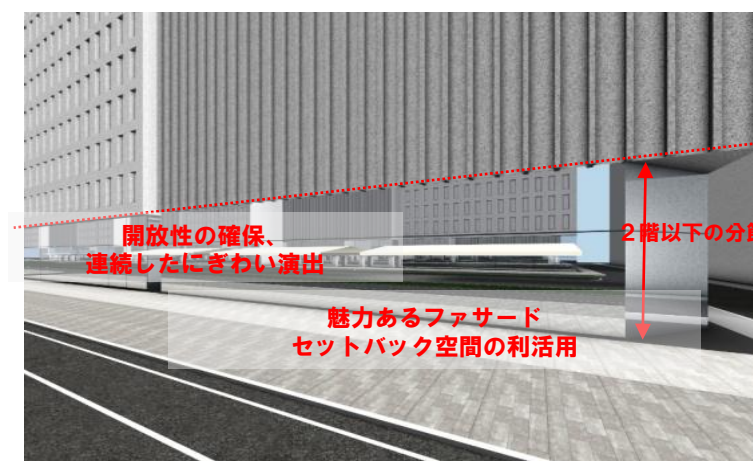
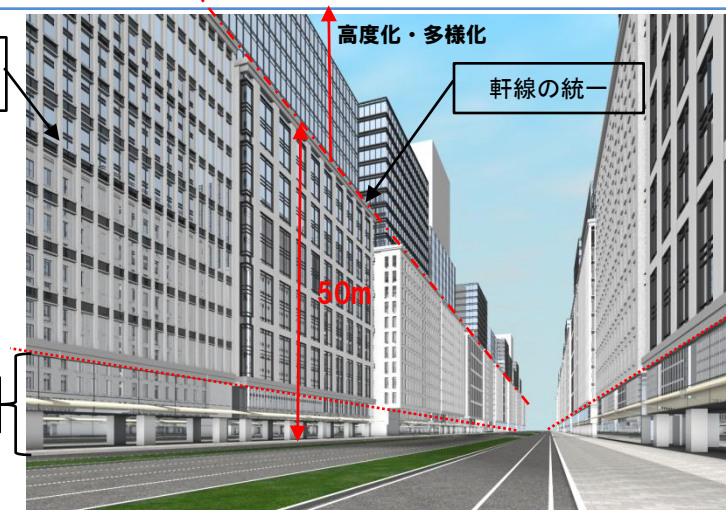
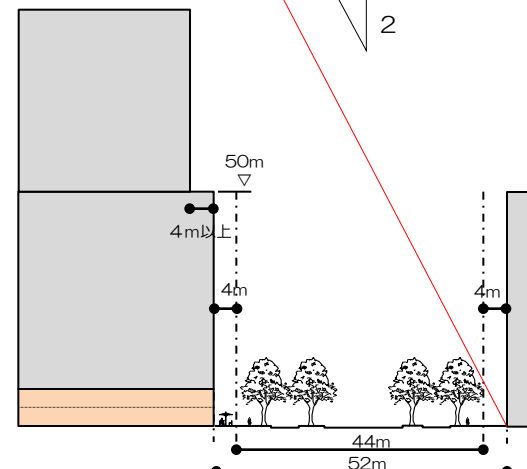
質の高い品格のある
色彩、素材

高度化・多様化

軒線の統一

30m

2階以下の分節化



開放性の確保、
連続したにぎわい演出

魅力あるファサード
セットバック空間の利活用